

## 逃亡者

1993年に公開されたアメリカ映画「逃亡者」は、妻殺しの罪を着せられた医師が警察に追われながらも真犯人を見つけ出すというサスペンスドラマですが、ハリソン・フォード演じる医師のキンプルは、連邦保安官補のジェラードの手から逃れようと逃亡を続けます。それは同時に、自分に科せられた冤罪に果敢に立ち向かう一人の人間の姿を描くものでもありました。キンプル医師は、「逃亡者」というより真実への挑戦者といえましょう。

先日（昨年 of 年末大晦日）、目黒公証役場事務長の逮捕監禁致死事件の平田信容疑者は、約17年間も逃亡を続けたあげく、自ら出頭し警視庁に逮捕されました。平田容疑者は、その罪から逃れるためだけに「逃亡者」であり続けたのですが、その生活に終止符を打たせたものはなんだったのでしょうか。

また、今月10日、警視庁は、平田容疑者を約17年間かくまって逃亡を手助けしたとして、犯人蔵匿の疑いでオウム真理教の元信者斎藤明美容疑者を逮捕しました。

大阪から斎藤容疑者と一緒に上京した滝本弁護士によると、「偽名で生活し、長く皆さんをだましてきました。本当に申し訳ありません。17年ぶりに本名を名乗りました。偽りの人生は終わりにします。」と述べているとのこと。

両容疑者は事実上の夫婦だといいますが、斎藤容疑者が偽名を使いながら一人で生活を支え、平田容疑者は引っ越しの時以外は一步も外に出ることなく逼塞している、そんな二人の生活に生活感は感じられません。

平田信容疑者は、弁護士らに「オウムへの信仰心は相当前に捨てた」などと語り、「改心の末の出頭」を思わせる一方、「自分は指示を受けて車を運転しただけで、当初、拉致計画は知らなかった」と説明するなど、事件の「共犯者」らの話と矛盾する部分もあるとのこと、本当のところはまだ藪の中です。

また、平田容疑者は、逃亡の足取りについて「他人に迷惑がかかる」として供述を拒んでいるとの報道もありますが、国内逃亡については、より大掛かりな支援組織の関与の可能性を指摘する声も出ています。

オウム真理教による凶悪な数々の事件は、日本の社会に深刻な影響を与えま

したが、その全容が明らかにされたとはいえないでしょう。しかも、オウム真理教関係特別手配被疑者の中では高橋克也と菊地直子の二人が現在もまだ逃亡中であり、事件は終わっておりません。

なお、1995年3月に起きた「地下鉄サリン事件」以降報道のワイドショー化が進んだといわれていますが、今回の二人の逮捕劇については、決してワイドショー化して興味本意に見ることのないよう注意する必要があります。一部の記事で、斎藤容疑者が15年前から勤務していた整骨院の男性患者の「美人で人当たりのいい人だった」というコメントが紹介されていますが、報道の使命は事件の真相に迫ることであり、斎藤容疑者が美人であるか否かは余計なことです。こんな所にも、ワイドショー化への芽を感じないわけにはいきません。

二人が「偽りの人生を終わりにする」というのであれば、オウム真理教による一連の事件について、真実を語って欲しいと思いますし、二人の進むべき路はそれしかない筈です。（塾頭 吉田 洋一）